

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	足立区千住曙町 2 1 - 7
園名	アスク千住保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音と五感

<テーマの設定理由>

自園はモンテッソーリを取り入れている園であるため、五感を磨き育てる保育を意識している。周りには様々な音があり、音を聴いたり鳴らしたりすることを通し、表現の幅や仕方や幅を広げていきたいと考え、このテーマにした。

2. 活動スケジュール

6月から1月にかけて、月1回音楽の専任講師を招いて実施。

次に講師が来るまでの間、クラスで振り返りを行い、探究活動を深め、子どもの興味や反応を拾い次の活動に繋げていった。身近な物に触れ、目に見えるもの、目に見えない気持ちや感覚などを、音を通して表現活動を探究する。

6月～8月 音から形や絵、情景などを連想し、音を目に見える形で表現してみる。

9月～11月 絵本を読んで絵本に音をつける

12月～1月 自分で作ったお話や描いた絵に音をつけ、気持ちを表現してみる

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・ 絵本（がちゃがちゃどんどん）（くれよんのくろくん）（ブレーメンの音楽隊）
（あばそこぱーん）（さんびきのこぶた）（わたしのワンピース）
 - ・・・絵本を読んで、絵やおはなしから音をイメージし、音を作ったり、探したりするために使用した。
- ・ 表情の顔カード・・・音を聴いて気持ちをイメージするために使用した。
- ・ ビンゴカード・・・音探しをする際、楽しく取り組めるように使用した。
- ・ 画用紙、クレヨン、色鉛筆・・・音を聴いて絵に描き、絵本や紙芝居を作ったり、自分で描いた絵やお話に音をつけるために使用した。

4. 探究活動の実践

【3歳児実施分】

問いを考える：

- ・ もし音が見えたらどんな形になるかな？この気持ちはどんな音？
- ・ 保育園にはどんな音があるかな？音を探してみよう。
- ・ 雨、風、雷の音を聴いてイメージするとどんな絵になる？
- ・ オノマトペを聞いてイメージするとどんな絵になる？
- ・ 絵本に音をつけたら、どんな音が合うかな？音で表現するとどんなかんじ？
- ・ 絵を描いて音をつけてみたら？

探究活動の様子：

○もし音が見えたらどんな形になるかな？この気持ちはどんな音？

絵本「がちゃがちゃどんどん」を読んでもらい、様々な絵本の音に対して「楽しい」

「変な音」と音の響きを楽しんでいる姿があった。

また、表情カードを見て、表情に合わせた表現を行ってみる。怒っている表情では、頬をくらませ鬼のポーズをしたり、どっしんどっしんと足踏みをして怒っていることを身体で表現したり、悲しい音楽では「眠い」「泣いてる」「悲しい歌」と答えが返ってきた。音楽から感情を聞き取ることができていた。

○保育園にはどんな音があるかな？音を探してみよう。

保育園の中を探索してオノマトペを探した。「ぼちゃん」と聞こえると、みんな一斉に「雨の音だ」や「滝の音かもよ？」「雷の音だ」と一つの音からみんなそれぞれ色々な音を探す事が出来た。観葉植物に触れ、葉がゆれると「さらさらー」と音が聞こえその音が聞こえた子は観葉植物を大きく揺らして音が鳴るのかを調べる姿があった。音から様々なイメージができた。

○雨、風、雷の音を聴いてイメージするとどんな絵になる？

雨、風、雷といった天気のおノマトペや音からクレヨンでイメージを広げてみた。風の音ではグルグルを描いてどれくらい風が強いかを想像して描いていた。雷の音では「この雷は遠い音じゃない？」「雷にどんな音？」「ゴロゴロ」等考えながら描く姿があった。

○オノマトペを聞いてイメージするとどんな絵になる？

講師から配られた絵にオノマトペを聞いて絵を描きたした。「ぴよんぴよんぴよん」とおにぎりにゴマ塩を振ったり、お皿の絵から「ぐるぐる」を大好きなパスタを想像して描いたりした。

○絵本に音をつけたら、どんな音が合うかな？音で表現するとどんなかんじ？

絵本「くれよんのくろくん」を見て、クレヨンたちがどんな顔をしているか、その時の気持ちを考えた。「これはうれしいとき」「音が小さいとかなしいみたい」と楽器の鳴らし方で違いがあることに気づいていた。花火はみんな手が痛くなるほど大きな音で手をたたいていた。

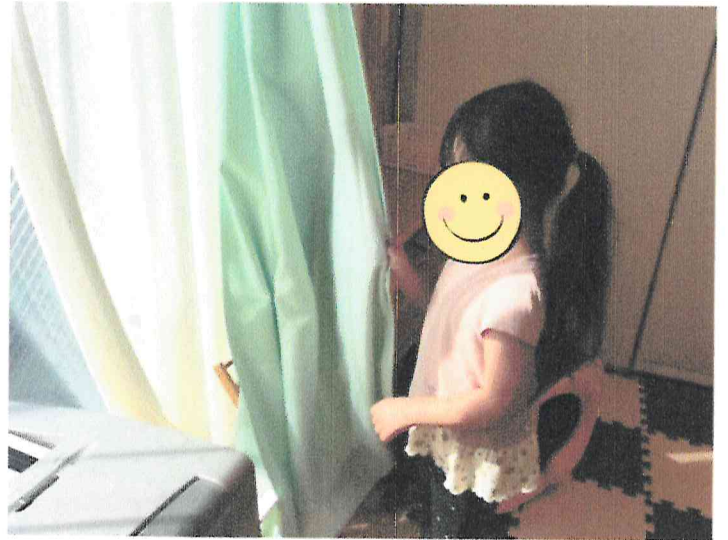
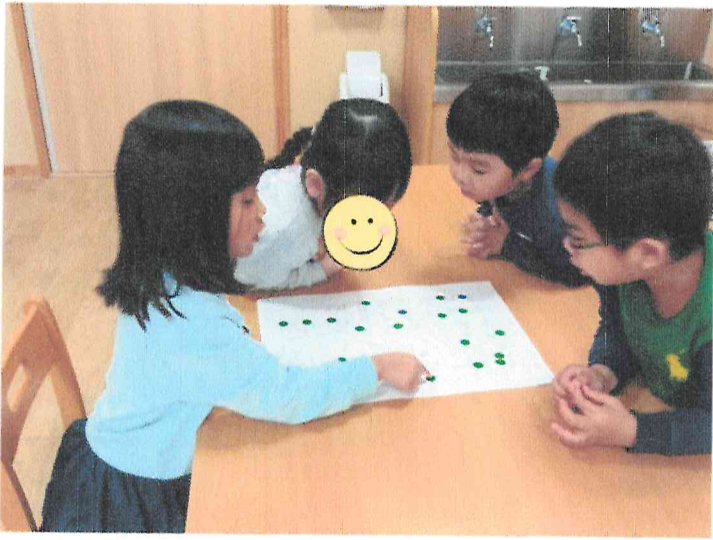
絵本「さんびきのこぶた」を読んで、家を建てる音はどんな音かを周りにあるもので考えた。「トントンって音がする。ブロックでたたくのはどう？」ままごとコーナーのビニールを鳴らして「この音はどう？」カーテンういゆらしたときは「オオカミがふーってするときの音だ」とみんなで探しながら発見し、楽しんでいた。オオカミから逃げる時の音は「走るときの音はどうか」とどたどた足を鳴らし、「いいね！」とみんなで大きな音を出したりしていた。次にそれらの音を楽器を使用して行ってみる。わらの家チームは楽器をやさしく鳴らし、木の家チームはタンバリンを思い切りたたいて表現していた。二人組を作り、オオカミが煙突を登るときや、お鍋に落ちる時など好きな楽器を選んで工夫しながら鳴らす姿があった。

○絵を描いて音をつけてみよう

まず絵本「わたしのワンピース」を読んで絵本に表現を付けてイメージを広げてみる。雨のシーンでは「ポツポツしてるね」と指1本で床をたたいたり、爪でひっかいて「大雨！」と表現する子もいた。小鳥や星の場面は手をバタバタさせながらジャンプしたり、流れ星を表現して手をキラキラさせながら下におろしたりと体を使って表現遊びを楽しむ。最後はオリジナルのワンピースを考えて描き、絵本に好きな楽器で音を付けて音楽絵本にした。

ふりかえり(保育士の気付き)：

初めの頃は、音の表現の仕方が分からずに、講師の真似をして音を鳴らす姿が見られたが、何度か経験していくうちに自分たちで表現の仕方を考えるようになり、絵本の読み聞かせでも「ここは悲しいから小さい音じゃない？」「逃げるときは足をバタバタするといよいよ」と発言する姿が見られるようになって良かったと思う。身の回りの物を使って音探しをする際は、保育者も一緒になって色々なものをたたいたり揺らしたりしていき、音を出すことを楽しみ、活動の後でも「こんな音見つけたよ！」と報告しあい、音楽をより楽しむ姿が見られるようになった。



【4 歳児実施分】

問いを考える：

- ・もし音が見えたらどんな形？
- ・保育園にはどんな音があるかな？音を探してみよう。
- ・オノマトペ 何の音？
- ・音楽を聴いて聞こえた音を絵にかいてみよう
- ・絵本を読んでもらいどんな音があるかイメージしてみよう
- ・絵本に音を付けてみよう
- ・気持ちを音で表したら？

探究活動の様子：

○もし音が見えたらどんな形？

「がちゃがちゃどンドン」の読み聞かせをしてもらい、言葉（音）の響きや雰囲気などをイメージしていきました。また、「「ぱちん」って音はこうしたらなるよ。」

「「ぽんぽん」っておなかを触ってるみたい」とおなかをさすったりして音を動きでも表現していた。

表情カードを使い音楽を聴きながらどの表情に近い音かを考えた。ゆったりとした高めの音が流れると寝る真似をしながら聴く姿もあった。

○保育園にはどんな音があるかな？音を探してみよう。

絵本の音を聞いた後は園内の音探し探検をする。飾にやさしく触れると「かさかさする」と言ったり、「ガチャって下記が開いた音がした」など、様々な音の発見を楽しんでいた。また、オノマトペのビンゴカードを作成し、「保育園にどんな音があるか、」ビンゴカードで楽しみながら探した。「この音どこでした？」など子供たち同士で相談したり、中にはビンゴカードにない音に気付いて保育者に教えてくれる子もいた。

○オノマトペ 何の音？

オノマトペのイメージをクイズにして行う。「ちょきちょきは？」の問いかけに「はさみ！」「とんとんは？」には「太鼓をたたく音」「野菜を切る音」など一つの音からイメージする音が複数出てきた。

していた。

○気持ちを音で表してみよう

身体や楽器を使って今の気持ちを表現していきました。「今はこんな気持ち」を考えると周りを見て気持ちを表せるものを探し、音にする準備をしていった。「速く走りたい気持ちだよ」とカスタネットを速くたたいたり、何回転もして身体を使って「お腹が空いた気持ち」を表現する子もいた。

ふりかえり(保育士の気付き)：

活動を行っていく中で音を聴くときに、普段気にするものではない音も聞き取るため集中して聞くことのできる環境を整えることが大切だと分かった。また、音という一つの物に対して絵本を見たり曲を聴いたりしてみることでその音はどんな形なのか、どんな色なのかの想像を膨らませて様々なイメージを持つことができた。友だちと共有する楽しさも味わうことができ良い経験になったと感じた。

そして何度か取り組むうちに身の回りには様々な音があると気付いて、普段の生活の中でも友だち同士で一つの音を色々な表現で例えたりして様々な表現を楽しむ様子が見られるようになった。





【5歳児実施分】

問いを考える：

- ・もし音が見えたらどんな形？
- ・どんな気持ちの音がする？
- ・音楽を聴いてお話を作ってみよう
- ・音楽を聴いてイメージを絵に描いてみよう
- ・音楽を聴いてどんな気持ちになる？
- ・絵本に音を付けてみよう
- ・オリジナルのストーリーを紙芝居にして音楽紙芝居をつくろう

探究活動の様子：

○もし音が見えたらどんな形？

絵本「がちゃがちゃどんどん」の絵本に出てくる「ぼんぼん」「ピー」などの言葉を聞いて、「やわらかいボール」「電車が止まる音」など言葉や音からイメージをるところから始める。きらきら星の演奏を聴いてどんな気持ちになるか考え、気持ちに合わせて歩いて表現した。「うれしい」「悲しい」「眠くなる」などリズムの変化と気持ちの変化を歩くことで形にした。「これは優勝した曲みたい」「にこにこかな？」など曲調に合わせて気持ちを想像していた。

○どんな気持ちの音がする？

前回音楽を聴いてどんな気持ちになるかを考えたことから、自分たちで「どんな気持ちの音楽でしょうか」とクイズを始めた。「テンテンはどんな気持ち？」「優勝した音？」「ゲームクリアした音！」「チャンチャンは？」「子犬が喜ぶ音」「面白い時の音？」「正解はふざけちゃうくらい楽しい音」とお友達同士の気持ちに触れゲーム感覚で楽しんでいた。

別の日には「こいぬのマーチ」と「よろこびのうた」を聴きどんな音がするかを聞いてみた。「こいぬがよちよちしていた音」「迷子になって泣いていた音」などイメージを口にしていた。よろこびのうたは「うれしい気持ちになったね」「幸せ！」「気持ちいい」など、それぞれの気持ちを共有する姿があった。

○音楽を聴いてお話を作ってみよう

ピアノの演奏を聴いてストーリーを作っていく。「ハムスターの音」「ハムスターが森にお散歩に行ってる」「それで迷子になる」など明るい音や暗い音、音の速さなどを聞き分けどんどんストーリーが膨らんでいく。作ったストーリーに合わせハムスターになりきって体を動かして表現していた。曲を変えると、5歳のうさぎが登場してきたり、手をつないでピクニックするところを探してたら虹が出たなど、どんどん世界が広がっていった。

○音楽を聴いてイメージを絵に描いてみよう

部屋を暗くし寝転がって静かな環境で音楽を聴くことに集中し、浮かんだイメージを絵に描いてみる。感じ方は様々でいろいろな絵が出来上がっていた。

○絵本に音を付けてみよう

絵本「くれよんのくろくん」に楽器で音を付けてみた。クレヨンが絵を描いているときは「みんなで鳴らそう」と全員で楽器を鳴らしたり、くろくんが仲間外れにされてしまったときは楽器を静かにならすなどと自分たちで工夫していた。「悲しい音はマラカスは鳴らさないかな?」「涙の音は鉄琴?」「花火はタンバリン」と友達同士相談しながら表現していた。

絵本「ブレーメンのおんがくたい」を読んだ後、4チームに分かれ、それぞれ動物の音を考える。ロバチームは手をグーにして床をたたき、犬チームは上履きを使って床をたたきそれぞれの足音の違いを表現していた。猫チームはピアノカを小さく優しく吹いてしょんぼりしている音、オンドリはタンバリンを鳴らすなど少人数で相談して音を考えていた。ストーリーを進める中で、どんな楽器で表現できるか様々な楽器から探し出し音を作っていた。「心に虹がかかった音」など自分なりのイメージを作り上げていた。

発表会で行った劇の「ピーターパン」にも音を付けていった。場面ごとにどんな音がするかを楽器を使いながら考えて音楽劇にした。「魔法をかけるところは木琴で全部の音を鳴らす!」「剣の音はトライアングル」など、劇の場面を思い出しながら音を付けていった。

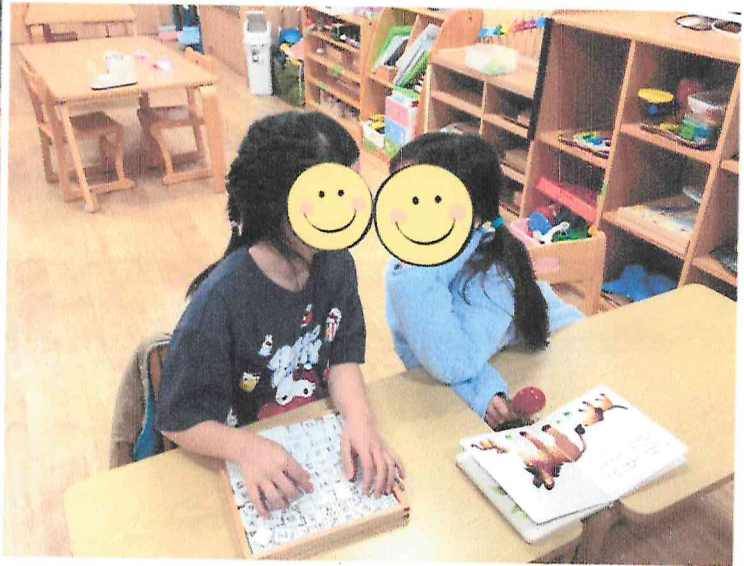
○オリジナルのストーリーを紙芝居にして音楽紙芝居をつくろう

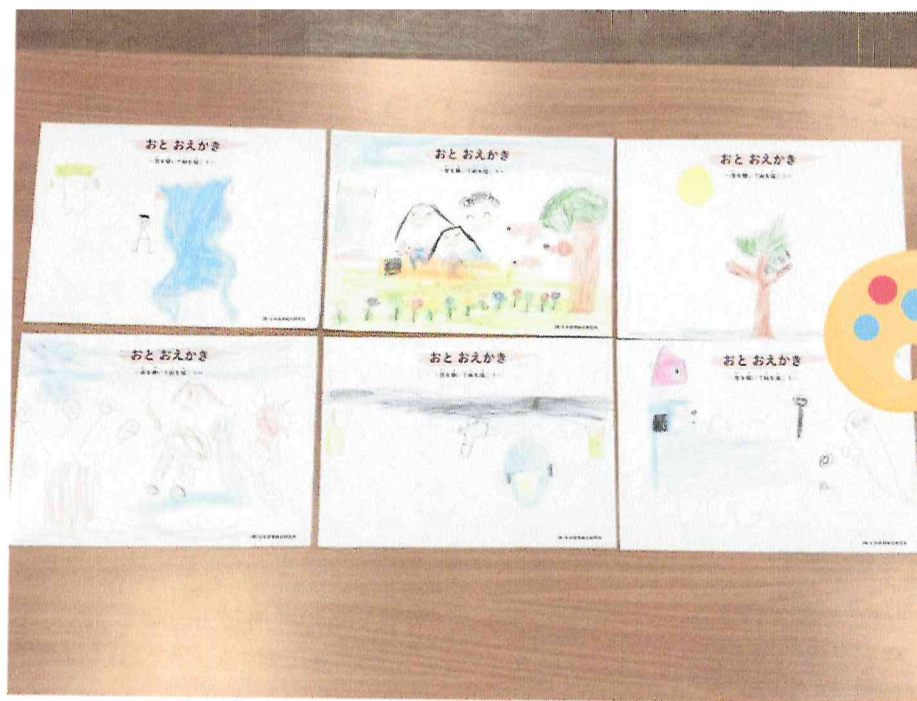
オリジナルのストーリーを作り楽器で音をつけた。二人組に分かれ、「誰のお話にする?」「場所は森にしよう」「お買い物に行っているのはどう?」など各々が積極的に考えを発言していた。メモを取りながら進める姿もあった。ストーリーができるとそれを絵に描き紙芝居を作った。皆の考えた場面を上手に役割分担し描いていた。描き進めていくと、さ

らにイメージーションが膨らみどんだん話が追加されていった。最後は出来上がった紙芝居に音を付けて音楽紙芝居を完成させた。楽器だけでなく、ブロックを混ぜる音や、トランプをパラパラめくる音など、音を作り出す姿もあった。「踏切の音はピアノのミの音が合うと思う」などと発見する子もいた。

ふりかえり(保育士の気付き)：

今までは音を音としかとらえる機会がなかったが、音楽の形を想像したり、音楽の気持ちを考えたり、音楽を絵で表してみたりしたことで、子どもたちが五感をとの繋がりを見つけ、五感を使って音楽を表現できるようになったことに気付いた。また、そこから反対に、その時の気持ちや、自分たちで考えた物語の音を考えていくことが出来るようになり、発想力や表現力が豊かになったと感じた。それを活かして、発表会での合奏で劇の物語や音楽の雰囲気に合わせて合奏をしていくことが出来た。





とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	足立区千住曙町 21-7
園名	アスク千住保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

身体の使い方を考えて動いてみよう

<テーマの設定理由>

身体を動かすことが好きな子どもたちだが、限られたスペースの中では走る、跳ぶなどの動作を伴う活動が少なくなりがちなため、今ある環境の中でどうすればより良い身体の使い方を身につける事が出来るか、さらにはどうすれば筋力アップにつながるかを考えて行きたいと思った為。

2. 活動スケジュール

6月から1月にかけて、月1回音楽の専任講師を招いて実施。

次に講師が来るまでの間、クラスで振り返りを行い、探究活動を深め、子どもの興味や反応を拾い次の活動に繋げていった。体の部位を知り、何かをする時にはどこをどうやって動かしたらよいか、その動きを使って何が出来るかなど、体の動きを探究する。

6月 からだとは何かを知る

7月～12月 跳び箱、マット、鉄棒、ボール等、用具を使いながら体の動きを探究する

1月 やってきた動きを振り返り、まだやっていない動きは何か、その動きを探究する

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

身体の動作表（体の動きを描いたもの）どんな動きがあるかわかりやすくするため
とびばこ、マット、鉄棒、ボール、平均台、フラッグ

4. 探究活動の実践

【3歳児実施分】

問いを考える：

- からだってなあに？
- 体を使って動物や花火を表現してみよう
- 色々な体の動きを試してみよう
- どうやって身体を動かせばうまくできるかな？
- 跳び箱を使っていろいろな動きをしよう
- 「組む」遊びを考えよう。
- 鉄棒を使ってどんな動きがあるかな？
- ボールを使ってどんな動きがあるかな？
- マットを使ってどんな動きがあるかな？

探究活動の様子：

○からだってなあに？

「からだって知ってる？」の問いかけに、まず答えたのは「からだ！」とそのままだが返ってきた。そこで、「からだってなにがある？」と聞き方を変え、体の部位を考えた。すると、「鼻」「足」「腕」「目」など身体を割りながら意を探す姿があった。

その中から「足」を選び、足はどう使うかを考えてみる。

身体を動かしながら、「ジャンプ」「蹴る」などカエルとびをたり、蹴る真似をしたりして、足の使い方を表現していた。「どうすれば高く跳べるかな？」には考えながら、「腕をバスと高くなるかも」と一人が提案すると、みんなで試してみて「高く跳べた！」ときづくことができた。

○体を使って動物や花火を表現してみよう

体を使って色々なものを表現してみる。自分の好きな動物に変身してみた。身体のどこをどのように動かしたら動物が表現できるか各々考えながら取り組んでいた。

花火を表現するときは、「ひざを曲げてしゃがんでみたらいいんじゃない？」と友だちと考える場面があった。

○色々な体の動きを試してみよう

身体の動作表を見て色々試してみた。

動作表を見たときに、「跳ぶ」「逆さになる」「ぶら下がる」「跳ねる、スキップ」「くぐる」「回る」に興味を示す。その中で「跳ぶ」を考える。「ジャンプするときは？」との問いに「ひざを曲げる」「しゃがむ」などと考えていき、徐々に距離を広げてどうすれば高く飛ぶことができるか考える姿も見られた。

「逆さになる」ためには「ひじは伸ばす」「手はパー」と逆さになるための方法を考えきづく姿も見られた。

○どうやって身体を動かせばうまくできるかな？

動作表からやってみたい動きを選ぶ。最初に「蹴る」の仕方を考えた。「まずは立つ」「足は後ろにする」「ひざは曲げる」とひとつずつ考えを発言していた。

「組む」ではどうしたら手をつないだまま離れないかを考えた。すると、「指はこうやって重ねるの」と指を交互にかさねてつなぎ上手に「組む」としていた。

○跳び箱を使っていろいろな動きをしよう

跳び箱のできる動きを考えて行った。動作表を見て、「跳ぶ」と「たたく」ができることに気づく。ジャンプをするとき、着地をするとき、どうしたら怪我無く着地できるかなども考え「ひざを曲げればいい」ときづく姿があった。

○「組む」遊びを考えよう。

「組む」では手をつなぐ遊びを考え出していた。どうやったら離れずに手をつないでいられるか、友だち同士をつなぎ、「指をこうしようよ」とやってみたり、「回ると楽しいかも」など遊びに発展させる姿もあった。

鉄棒にラサ狩りが離れない方法も考えていた。「手はこうして・・・」とやりながら考えたり、「強く握ると落ちない」など考えやってみる姿があった。

○鉄棒を使ってどんな動きがあるかな？

鉄棒を使って何ができるかを考えた。そのなかで「くぐる」「ぶらさがる」をやってみた。ハイハイをしてくぐったり、てをつかなくぐったりしてみる。鉄棒にぶつからないようにするためにはひざを曲げたりしていた。「ぶらさがる」は「組む」「つかまる」の動きを思い出しながら取り組んでいた。またあ、つま先をひっかけたり膝でぶら下がったり、足の裏を使ったりやり方が色々あることも知った。

くぐる動作も尾上を向いてくぐるをやってみたところうまくいかず、「どこにちからをいれたらいいか考えながら行う子もいた。「背中に力を入れたらいいんじゃない？」と気づき何度も挑戦する姿もあった。

○ボールを使ってどんな動きがあるかな？

動作表を見ながらボールを使ってどんな動きがあるかを考えていった。

子供から「ドリブル」「よける」「のる」「渡す」が出てくる。一つ一つ試してみた。前にやった「蹴る」から始める。「蹴る」為にはどこを動かす？と聞かれると「足」「こうやって動かすんだよ」と動かし方を伝えていた。

「ドリブル」たてでたたく。「のる」では片足を上げてみるとバランスが取れず転がってしまう友達がいて、「手を使うと足があげられるよ」と友だちに教えてあげる姿もあった。

「渡す」はみんなが渡せるように輪になって落とすことなく渡していた。

他に足に挟んでジャンプしたり、かごに投げ入れたり、3回投げて自分でキャッチするなど、子供たち自身がルールを考え、ボールを使った遊び、動きを考えていった。

○マットを使ってどんな動きがあるかな？

マットでは「転がりたい」と転がってみたり、マットを押ししたり友だちを載せて運んだりトンネルのように折り曲げてくぐったり色々な動きをおこなった。「押す」「引っ張る」はひざを床に付けずに押すと力が入ることを気づいて友だちに教える場面もあった。

○色々な動きをしてみよう

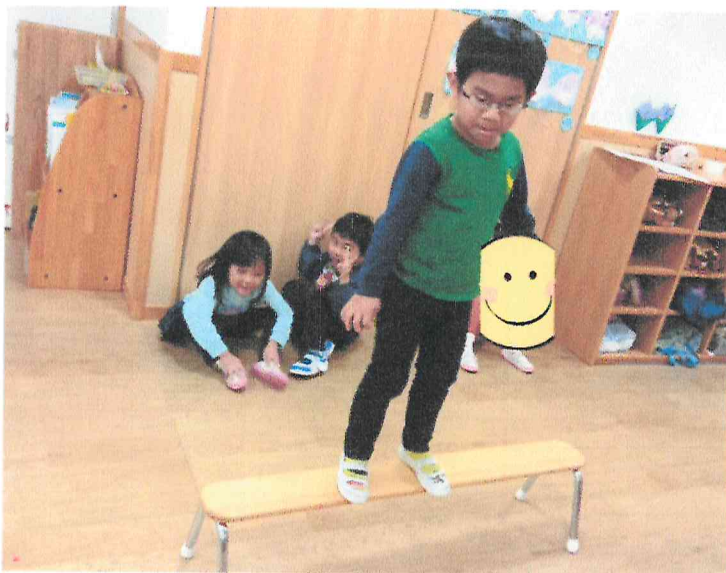
最後に動作表を見てまだやってないごきを試してみた。

「のぼる」や「渡る」「下りる」がやっていないことに気づき、平均台を使ってやってみた。どうやって渡ったら落ちないか考え、「手を広げる」「かにさん歩き」など考え発言しながら取り組んでいた。

ふりかえり(保育士の気付き)：

体の動きまとめプリントを使うことで、どんな動きができるのかを子どもたちが考えて試すことが出来るのは良かったと思う。初めは、どう体を動かすのかが分からずにじっとしている姿もあったが、講師や保育者が一緒にやったり、挑戦する姿を十分に認めたりしていくことで、少しずつ体を動かすようになり、慣れてくると「次はこれがやりたい」「こんなやりかたもあるよね」と自分から発言したり、積極的に取り組む姿が見られて良かった。すくわく以外の活動時でも、ボールや鉄棒を使った遊びに積極的に取り組んだり、他の器具にも興味を持ったりする姿が見られるようになった。





【4歳児実施分】

問いを考える：

- からだってなあに？
- 指はどんな動きをする？
- 足にはどんな動きがある？
- 跳び箱を使って動いてみよう。どんなことができるかな？
- マットを使って動いてみよう。どんなことができるかな？
- 鉄棒でどんなことができるかな？
- 他にはどんな動きがあるかな？

探究活動の様子：

○からだってなあに？

「からだって何？」と聞かれると「手」「ほっぺもあるよ」「おしりも」など、伝えたいからだの場所に触れながらたくさんでてきた。答えた中から「手」に注目し「手はどう動く？」と聞かれると「鉄棒ではこう動くよ」と握ったり「ピアノをする時はこう」と指を細かく動かしたり、それぞれ思いつく動きを表していた。

「走る時の手は？」「グーになってる」「腕は曲がってる」等の気付きもあった。

○指はどんな動きをする？

指の動きについても考えてみる。「折り紙を作る時に指を使う」「はさみを使う時」「紙を持つよ」など意見が出て、それらを使って製作をしてみた。「指でスタンプをする時はこうじゃない？」「指を使う時の力は？」など状況と動きを考える姿があった。

○足にはどんな動きがある？

足にはどんな動きがあるか考えた。実際に体を動かしていくと、ジャンプしたり、「フラミンゴ」と言いながら片足立ちをしたりして、足を伸ばす、曲げるなど様々な動かし方を発見した。動作表を見ながらどんな動きがあるかも確認し学んでいた。『起きる』では「足は、えい！って力を入れた」「手は床を押した」『くぐる』では「ばぶちゃんみたいハイハイした」「手と足でペタペタした」など、どうやって動くかを考えながら動いていた。

○跳び箱を使って動いてみよう。どんなことができるかな？

動作表を見ながら、跳び箱でできそうな動きを探した。「跳ぶは？」「さかさまになるは

できるかな？」など色々な動きを見て、出来そう！やってみたい！と意欲的に取り組む姿があった。「登る」「降りる」では跳び箱に手をつけながら登り、足を曲げながら降りるなど、動きを意識して行った。色々な動きで、手を使うか、足を使うかなど友だち同士話ながら行っていた。跳び箱の下の部分を使いお風呂にして、「跨ぐ」も出来るねと気付きもあった。

○マットを使って動いてみよう。どんなことができるかな？

マットは上で転がったり回ったりするだけでなく、立ててお風呂にしたり三角にしてトンネルを作ったりして、どうやって動くのかを楽しんでいた。

マットに寝転がり、「マットから落ちないゲーム」を展開し、落ちないようにするには、「足をぎゅっとするとひっくり返らない」「体に力を入れるよ」など、さまざまな工夫をしていた。マットの上を生き物の真似をして進んだ。「足と腕に力を入れたね」「阿曾を伸ばしてジャンプした」など、どうやって動くかを意識しながら行っていた。

○鉄棒でどんなことができるかな？

鉄棒ではどんな事が出来るかを考えた。「くぐる」「回る」「ぶら下がる」など、自分が出来ることを探した。回り方やぶら下がり方にも様々な方法があり、暴徒手でつかんだり足をかけたりして取り組んだ。一つの動きでもたくさんする方法がある事に気づく様子があった。

○他にはどんな動きがあるかな？

動作表を見ながら、今までやった動きを確認し、やったことのない動きをした。

ボールを使い友だちとペアになって、投げたり転がしたりし「とる時とか転がす時はしゃがんで持った！」と動きを組み合わせで行うものもあることに気付く様子もあった。

「渡る」という動きは平均台を使って取り組んだ。「足に力を入れたよ」「ゆっくり進むとよかった」「手を広げた」などと話してバランスのとり方や進み方を意識して行う姿があった。

ふりかえり(保育士の気づき) :

普段何気なく動かしている体のことを知る良いきっかけとなった。体のそれぞれの動かし方や運動器具の使い方を知っていくことで、こどもたちからその動きや器具を使ってやってみたいこと、やってみたいゲームが出てきてからだを動かすことの楽しさを感じる事が出来ていた。実際体を動かしながら進めることで、積極的に発言したり、活動がどんどん広がっていった





【5歳児実施分】

問いを考える：

- からだってなあに？
- からだをどうやって動かしたかな？
- 手、足にはどんな動きがあるかな？
- フラッグではどうやって体を動かす？
- マットを使って動いてみよう。どんなことができるかな？
- 跳び箱を使って動いてみよう。どんなことができるかな？
- 他にはどんな動きがあるかな？

探究活動の様子：

○からだってなあに？

からだってなあに？と聞かれると、「心臓」「鼓膜」「手」「足」と内臓までたくさんの発言があった。「目・手・足」はどういう時に使うかを考えた。「見る時、持つとき、走る時」と様々な使い方がでてきた。「足で歩かなくても手で進める。」「ボルダリングは手も足も使うね」など、さまざまな気づきがあった。

身体を動かしたときの手の語りやひじの形も考えていった。「車の運転の時は」「手形を紙に押す時は」と次々と手の動かし方がでてきた。

○からだをどうやって動かしたかな？

友だちと手を繋ぎ、フラフープを順番にくぐらせ隣へと運んでいく「フラフープ送り」で遊ぶ。より早く運ぶためには「だんごむしみたいになるといいよ」等工夫しながら体を動かす姿があった。フラフープ送りを通して体のどの場所を使ったかを振り返りながら考えた。

○手、足にはどんな動きがあるかな？

手にはどんな動きがあるかを皆で考えた。「手を繋ぐ」「グーにする」「肘を曲げる」など、みんなで手を繋いでみたり手を動かしてみたりしながら動きを探した。

足は「走る」「蹴る」などと発言しながら動かし「蹴るときは曲がってて前の時は伸びてるね」など様々な動かし方に気付いた。

○フラッグではどうやって体を動かす？

フラッグを動かして「これは振るの動き」「まわすもやってみよう」と体の動きを考える姿があった。動作表をみながら、「くぐる、おさえる」「立つと止まるも使ってたね」「しゃがむも使ってた」など色々な動きを使ったことにも気づく事が出来た。

○マットを使って動いてみよう。どんなことができるかな？

動作表を見ながら、マットを使った動きを考えた。「まわる」「トンネルにしたらくぐるもできるんじゃない？」「すべり台を作ってすべるも出来そう」など考え、跳び箱で高さを作りすべり台にして遊ぶ姿があった。マットと跳び箱で作ったすべり台。どんなからだの動かい方ですべれるかを考えながら遊んだ。「座って足から滑る」「手を伸ばし頭から滑る」「背中ですべる」など様々な滑り方で楽しんでいた。

○跳び箱を使って動いてみよう。どんなことができるかな？

跳び箱は、手をついて跳ぶのはもちろん、横にしてたてて鬼ごっこをするなど、遊び方も工夫しながら体の動きを確認していく。

○他にはどんな動きがあるかな？

今までやってみた動きにシールを貼り、どんな動きがあるかを確認し、まだやったことのない動作をやってみた。「支える」では皆で頭の上までマットを持ち上げて手で支えながらお神輿のように歩いたり、「起きる」ではマットの上に寝転んで起き上がってみたりした。「転がすを使ってボウリングをしよう」など案が出てくる。平均台をセーフ場にし、平均台から落ちないようにするにはどうすればよいのか意見を出し合いながら、鬼ごっこをする姿があった。「引くを使ってつなひきをしよう」「転がすを使ってボウリング」など、体の動きを考えながら遊びに繋げていた。

ふりかえり(保育士の気付き)：

普段の遊びや運動の中で、自分たちがどんなからだの場所を、どのようにして使っているかを考える機会がなかったので、からだの動かす場所や動かし方を意識できるきっかけとなった。そこから、運動会での鉄棒や跳び箱での指導時に、体の使う場所や力の入れ方を意識しやすくなったようで、新しい技に挑戦したり苦手意識がなくなったりしていった。また、初めて使うフラッグでも新しい道具や動きを楽しみながら取り組む事が出来ていた。

最後は、平均台などを使って自分たちで遊びを考えていくことで、様々な遊びを考えて行ける発想力を広げながら、体幹などを鍛えることが出来たと思った。

5. 活動の様子が分かる写真



Thank You!



